



音に対する徹底したこだわりに思わず感心させられたのが、こちらの製品、アコースティックリバイブのイヤホン用リケーブル「REC-absolute-FM」です。

5N銀と6N銅によるハイブリッド鍛造導体「PC-TripleC EX」や、テフロン素材の絶縁材、FINE-MET（ファインメット）ビーズなど、アコースティックリバイブが得意としている（他のケーブル製品でも採用している）手法を盛り込みつつも、同時に、プラグ類にチタンカバーを組み合わせた制振構造をもつコネクタや、イヤホンジャックとケーブルの接続にハンダ使用を避け“レーザー溶着”を採用するなど、イヤホン用リケーブルとしての新しいアプローチも行われています。この徹底ぶりがアコースティックリバイブらしさであり、丁寧な造りの外観も含めて、ハイエンドクラスのイヤホン用リケーブルとして十分に納得させられる質感のよさを持ち合わせています。

ちなみに、「REC-absolute-FM」はオーダーメイドによる完全受注生産となっていて、イヤホン側の端子がMMCXとIEM用2pinの2つから、プレーヤー / アンプ側の端子が2.5mm4極、4.4mm5極、3.5mm3極、3.5mm4極の4つから選べるようになっています。また、ケーブルの長さに関しても特注を受け付けています。

さて、もっとも肝心のサウンドを確認させてもらうべく、イヤホン側はMMCXとIEM向け2pin、プレーヤー側が3.5mmと4.4mmバランスという合計4タイプの製品を借用して、試聴を行いました。

一聴して驚かされたのが、ダイレクト感の高さとクセのなさです。まるでケーブルが存在を消してしまったかのように、プレーヤーやヘッドホンアンプからの音がダイレクトに伝わってきます。アコースティックリバイブは、“ソースに刻まれた信号をピュアに伝送し、よりリアルな音のステージをリスニングルームに解き放つ”というポリシーを掲げていますが、その体現を見るかのような、とてつもなくピュアなサウンドです。

実際、手元にある様々なイヤホンで試してみましたが、総じて、イヤホン本来の特徴が如実に伝わってくる、好ましい傾向を体感させてもらいました。たとえば、Acoustune「HS1650CU」は、全体的にキレの良いサウンドのなかにウォーミーなヴォーカルが存在感強く鎮座している様子がはっきりと伝わってきますし、ULTRASONIC「SAPHIRE」はただ優しいだけではないクリアさやキレのよさを伴った上質なサウンドを聴かせ

てくれました (ULTRASONIC「SAPPHIRE」は2pin端子の表裏が一般的なものとは逆の特殊な作りをしているためオーダーの際は注意が必要)。

なかでも絶妙なマッチングを見せてくれたのが、ビクター「FW10000」です。こちら、付属する純正ケーブルもけっして悪くはないのですが、「REC-absolute-FM」に交換すると歪みをいっさい感じないとてもなめらかな音色になり、ダイレクト感も向上、リアルな演奏や歌声を存分に聴かせてくれるようになります。特に女性ヴォーカルのリアルさは特筆もので、歌声の感動もひとしお。まるで、「FW10000」のタメに作られたケーブルのようです。

また、final「A8000」との組み合わせも好印象でした。もともと、高い解像度と深い抑揚表現を持つ「A8000」ですが、純正ケーブルとの組み合わせでは高域のちょっとしたクセがあり、個人的にはそれが多少気になっていました。しかしながら「REC-absolute-FM」に交換するとそれが一気に解消され、一段と自然な音色に変化してくれます。おかげで、女性ヴォーカルは優しい歌い方に変化して、かなり聴き心地が良くなります。いや、「A8000」本来のサウンドはこちらのほうなのでしょう。「REC-absolute-FM」はハイエンドクラスのイヤホン用リケーブルですので、コスト負担はそれなりとなってしまいますが、どちらのイヤホンもここまで上質な音に変化してくれるのであれば、本気でリケーブルを考えたくなくなります。

いっぽう、カスタムIEMでもかなりの好印象を持ちました。カナルワークス「CW-L72」は音数がグッとふえて隙間なく空間が埋まり、同時にハスキーな女性ヴォーカルがより感情的な歌声を聴かせてくれました。また、ユニークメロディでは「Mason II」などとのマッチングがよく、キレのよい抑揚表現と繊細な空間表現を巧みなバランスで楽しませてくれました。

なお、今回の試聴では長めのエージング時間を持たせてもらいましたが、2日、50時間ほどで本来のサウンドを楽しませてくれるようです。念のため、10日、240時間までエージングを行いましたが、100時間を越えたあたりからはほとんど変化はありませんでした。購入された場合は、とりあえず新品の音を聴いてみて (やっぱり気になりますよね！？)、その後2日ほどエージングしてから使い始めることをオススメします。

さて、オススメのタイプですが、MMCXとIEM向け2pinでは大きな違いを感じませんでしたので、よく使う、または組み合わせたいイヤホンに合わせてチョイスするのがよいと思います。いっぽう、プラグに関しては、4.4mmバランスがいちばんのオススメとなります。こちらですと、「REC-absolute-FM」ならではのSNのよさ、セパレーションのよさが大いに享受できますので。とはいえ、3.5mm3極プラグでも持ち前のSN感の良さ、ヴォーカルのダイレクトさはそれほど失われませんので、環境優先でチョイスして間違いのないと思います。

このように、アコースティックリバイブ「REC-absolute-FM」は、高価であるだけの確かなクオリティを持ち合わせる、秀逸なリケーブル製品です。お気に入りのイヤホンに組み合わせるリファレンスケーブルとして、検討してみたいかがでしょうか。